

はっちゃんがまんぷくになるまで

四年 都筑 葵

はっちゃんは、わたしのネコです。かつこいい白黒もようの大きなオスネコです。はっちゃんはいつまでもはらぺこのネコでした。それと、人を二回信じてくれた強いネコです。

はっちゃんがわたしの家に来たのは、去年の十一月です。道路の向こうの畑のすみで、野菜くずのにおいをかいていました。よごれた毛の下にゴツゴツとほねがうかんで、やせ細っているのが後ろから見てもわかりました。はっちゃんは、わたしが近づくと一度にげていきましたが、しゃがんで声をかけ直すと動きを止めて、こっちへふり返ってくれました。そのときのふるえた目と目が合って、わたしは「この子を助けてあげなきゃいけない。」と、強く強く思いました。

それからお父さんとお母さんと話し合って、はっちゃんをわたしの家にむかえることにしました。ぬらしたタオルでふいてあげると、はっちゃんの毛はぬいぐるみのようにふんわりしました。ただ、首のまわりの毛がぐるっとはげていて、いたそうでした。動物病院につれていくと、これは首輪のあとで、はっちゃんは人にかわれていたのにすてられてしまったネコだと教えてもらいました。

はっちゃんは、ごはんをあわてて飲みこむように食べるので、毎日おなかをこわしました。お皿が空

になると大きな声で鳴いてほしがるのがかわいそうで、もう少しごはんをあげると、はっちゃんはまたあわてて食べておかわりをほしがりました。食べても食べてもほしがるはっちゃんに、わたしは「だいじょうぶだよ、毎日ごはんをおなかいっぱいあげるよ。」と何度もやくそくをしました。またいつごはんをもらえなくなるか、不安でくるしいはっちゃんの気持ちがあわかつた気がしたからです。それでも、次の日も、月がかわっても、はっちゃんは同じようにごはんをほしがりました。

また月がかわって、わたしとはっちゃんは投げたオモチャをとってくる遊びや、おたがいの鼻の先つぽをくつつけるあいさつをおぼえました。はっちゃんはいいかわらずはらぺこだったけど、身体はふつくと元気になりました。それからわたしたちはいっしょにお昼ねをして、たくさん遊びました。次の日、はっちゃんはゆつくりひと皿ごはんを食べて、そのあと毛づくろいをしました。もうおかわりをほしがりませんでした。はっちゃんの身体と心は、ようやくまんぷくになりました。わたしは、この日のことをずっとおぼえていようと思いました。

はっちゃんとは人のつごうですてられて、つらい思いをしたネコです。おなかも空いていたけれど、心はもつとぎずついていました。それでももう一度人を信じようと決めてくれたはっちゃんのやさしさと勇気をうら切らないように、わたしはせきにんを持っていっしょに生きていきます。